

令和3年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第三中学校

経営理念	生徒の学力向上と、生徒にとって安全・安心な学校を目指す
------	-----------------------------

【学校運営協議会・会長】 兼城 みや子	
学校運営協議会（学校評価分）	第1回 4月22日（木）
	第2回 11月25日（木）
	第3回 1月27日（木）

経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価			改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	学校関係者評価				
			目標値 11月 達成値	最終評価 達成度	評価		意見	評価点 (4点満点)			
確かな学力の向上	授業力向上を図る。	自己申告書等をもとに、指導法の工夫・改善を行う。外部講師を招聘した研究授業の実施	90	98	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もGIGAスクールを意識して、ICTを活用した授業改善を継続して行い、成果を検証していく必要がある。 ・「三中スタンダード」を基に、「定期考査前補習教室」や長期休業中の「補習教室」を活用して基礎・基本の定着と思考力を高める。 ・生徒による授業アンケートの成果と課題の分析、小学校との授業実践交流を基に授業改善を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習が遅れがちな生徒の対応が必要と思います。外部講師を招いての研究授業は非常に良いと思います。 ・授業が分かりやすいと回答している生徒が多数いることは素晴らしいと思うが、分かりにくいと回答している生徒の対応が必要だと思う。 	3.7			
	指導方法の改善・工夫を行う。	「主体的・対話的で深い学び」の授業展開について「生徒の自己評価活動」をもとに、検証を行う。	80						94	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業計画に基づく分かりやすい授業、生徒が主体的に取り組む授業を継続して実践する。 ・定期考査前補習教室、長期休業中の補習教室の学習内容を見直し、つまずきのある生徒の学力の向上を図る。 ・授業後の課題をやり遂げる習慣を身に付けさせることが必要である。
	家庭学習の定着を図る。	「学習の手引き」をもとに、学習の仕方を学ばせ、各担任により、取組の進行管理を行う。「家庭学習状況調査」を実施し、検証を行う。	80	89	A						
豊かな心の育成	いじめ撲滅への取組	「いじめアンケート」「いじめ撲滅キャンペーン」等を活用して、思いやりの心を育成する。	90			92	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的ないじめのアンケート、担任を中心とする見守り等の取組の効果が出ている。 ・いじめに関して教員の意識を常に高め、相談しやすい雰囲気をつくる必要がある。 ・不安や悩みを抱えている生徒の把握、迅速かつ適切な対応を行う意識の向上と体制の維持が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを定期的実施する。こまめに二者面談を行うなどして、いじめのサインを見逃さず教員間で情報を共有し組織的に迅速・的確に対応する。 ・教員の人権意識向上と「いじめの対応」、「体罰防止」の研修会を継続して実施し、教員の意識向上を図る。 ・学年会などで、ベテラン教員と若手教員で、生徒理解、生徒指導について話し合う時間を十分確保し、必要なら研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がることによって、学校生活、人間関係にも慣れてくると思います。安心して学校生活ができるよう先生方の一人一人生徒への声かけに期待しています。 ・学校、家庭が子供たちの小さな変化にも気づき、声掛け、相談に励んでほしいです。 ・三中を「安心して過ごせる学校」と生徒・保護者ともに認識していて素晴らしい。 	
	特別な支援を要する児童・生徒への対応	教育相談の充実	90	70	B						<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーを含めた教育相談委員会を週1回実施し、共通理解を図っている。 ・必要に応じて各関係機関との連携を図りケース会議を実施し、情報交換と対応策を立てる。 ・スクールカウンセラーと生徒の全員面談を実施し、生徒理解に努める。 ・個別の支援対策としての別室指導を丁寧に行っている。
	全校あいさつ運動の実施	あいさつをよくする生徒の育成	90			104	A				
健やかな体の育成	日常的な体力づくりの推進	90	100	A	<ul style="list-style-type: none"> ・三中の伝統である「ミニ・オリンピック」を東京オリンピック・パラリンピックのレガシー教育と関連させて更に内容の充実を図っていく。 ・学校評価に間に合うように、実施時期を考える必要がある。 			<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったものの出来る範囲内での活動ができ、大変有効であった。 ・「弁当の日」「食育の日」または給食を通した食の指導を今後も続けてほしい。 ・人間生きていくのに食は一番大切なことなのでそれを指導してください。 			
食育の推進	食育の全体計画に基づく食育指導の実施	90				100	A		<ul style="list-style-type: none"> ・「弁当の日」の自分で弁当づくりを行う体験を通して、食や健康に関する意識を高め、保護者に対する感謝の気持ちをもたせることができています。今後も継続して取り組んでいく。 ・給食指導やお便りを通して、健康や食生活に対する意識を高めさせることができています。 		
開かれた学校	オリンピック・パラリンピック教育の推進	参加国や、環境についての学習の実施	90	90						A	<ul style="list-style-type: none"> ・直接オリンピックを観戦することができなかったが、テレビ等での観戦の推進や新聞づくり等で、生徒の関心を高めることができた。 ・オリンピック・パラリンピックに関わった生徒がいたので、それが他の生徒の関心を高めることにつながったと考える。
	学校の公開 保護者・地域との連携	学校公開週間の実施 地域人材の活用（ふれあいフェスティバル・地域の方々の話を聞く会）	90		96	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染対策により学校公開、学校公開週間は実施できなかった。 ・3学年の地域の方々との面接練習を通して、地域と生徒たちとの交流を継続している。 ・「ふれあいフェスティバル」を通じて、地域の方との連携に力を入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は学校公開及び学校公開週間を実施できるよう対策をとる。 ・学校だより、ホームページ、ツイッターの内容を充実させる。 ・コミュニティ・スクール、グリーンサポーターなどの活動の充実を図り、成果について保護者・地域に取組の様子を発信していく。 			

【達成度】 = [達成値] / [目標値]
 【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し

平均値 3.6